命の講話

7月4日（木）に、1年生107名が、南島原市西有家町の助産師 中村まり子先生の「命の講話」を受講しました。親の役割の重要性と命の尊さを認識し、思いやりの心を持ち、一人ひとりが心と体の主人公になるために、性について男女が一緒に学びました。
また、健康で幸せに生きるために大切な3つのことを教えて頂き、生徒たちは現在の生活を振り返り、将来のことについても真剣に深く考える絶好の機会になりました。

【以下、生徒の感想より抜粋】

私は特に家で生活しているときは何かをしながら話したり、お互いの顔を見ずに話したりすることがよくあります。快い会話をするためにもアイタッチングを意識して生活していきたいです。

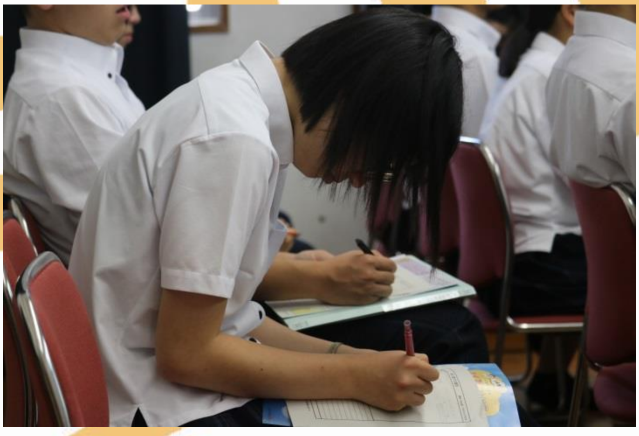
子どもの時に、1回でも虐待を受けたら、脳が委縮してしまい元に戻らないという話を聞いて、とてもショックをうけました。もし、自分の子どもが生まれたときは、アイタッチングや優しいタッチングをしてたくさん愛してあげたいと思いました。

アイタッチングや優しいタッチングができる保育士になりたいと思いました。幼児期の頃にしっかりと教育しないといけないということを知り、保育士になりたいという気持ちが一層高まりました。

自分が赤ちゃんを育てる立場になったときは、スマホやPCから離れて、赤ちゃんを見て接していきたいです。

生きるために大切な3つのことを学びました。一つ目は「アイタッチング」で、二つ目は「優しいタッチング」で、三つ目は「食育」です。相手の目を見て、笑顔で尻上がり言葉を使い、快い会話をすることを心がけたいです。フワフワ言葉をたくさん使って、友達ともコミュニケーションをとりたいと思いました。

悩みがあったときは、相談できる人を探し、一人で悩む必要はないのだということを学ぶことができました。　私が今元気なのは、父や母が顔を向けて目を見て育ててくれたからだと思いました。

私は普段から相手の意見に合わせてしまうことが多く、自分の意見を言うことが少ないです。講話を聴いて、ノーの反応をすることも大事なのだと分かりました。これから、少しずつでいいから自分の意見をしっかり言えるようになりたいです。

僕は、いろんなことを人に頼んだりすることが多いです。これからは、相手に自己決定権を委ねることができるようにしていきたいです。